

福山大学 経済学部 国際経済学科 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2020年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	大学の建学の理念や教育理念に基づき、経済学部の使命・目的の設定は完了している。経済学部の目的(経済学部規則第2条2)に次のように定めている。 経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生をそだてるとともに、企業や組織体を牽引するような潜在力を育む。 国際経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を育成する。 これは2012、2013年に議論され、2014年度から経済学部の目的として、経済学部規則に示した。今後もこの使命・目的を踏襲する。
	経済学部 国際経済学科

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	①その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	国際経済学科の使命・目的は「広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を育成する」であり、具体的かつ明確である。
年度目標	この使命・目的に基づき、具体的なグローバル教育を実践する。海外研修、留学に積極的に学生を送り出すことをミッションとする。
年度報告	予期せぬ新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外研修、留学に学生を送り出すことができなかった。しかし、コロナ禍でも出来る国際交流として、海外協定校と連携してオンラインツアーやオンラインディスカッションを実施し、一定の成果を得た。
達成度	A
改善課題	インドネシアだけでなく他の協定校ともオンライン交流を検討する。
根拠資料	①学長室ブログ②国際経済学科ニュースレター
点検項目	②個性・特色を明示していますか。
現状説明	国際経済学科では、グローバル人材の育成を目標に掲げており、その個性・特色を学内外に明示している。
年度目標	広報活動（高校訪問、学長室ブログ、SNS等）を通じて、さらにわかりやすく学外に明示す
年度報告	コロナの影響で回数は減ったが、高等学校の進路説明会等に教員が積極的に参加して、学科の魅力を高校生に直接伝えることができた。
達成度	A
改善課題	SNSをより効果的に活用する
根拠資料	①福山大学ホームページ②国際経済学科Facebook③福山大学要覧
次年度の課題と改善の方策	教員不足と新任教員が多くなるので、各教員が広報意識を持ち、学科の魅力を学内外に発信する心構えを持つ。
点検項目	③社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	グローバル化が進む今日、社会の要請や背景の変化について、学科会議等で検討してい
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルス感染拡大という社会背景の変化にどのように対応するかを検討した。国内研修へのシフトを検討したが、緊急事態宣言によりやむなく中止した。一方、オンラインによる国際交流や学習機会が増えたのはコロナ効果と言える。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	コロナの影響が高校生やその保証人の国際志向にどのような影響を及ぼすのか、また、悪影響をどう克服するかが課題である。

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	①使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	色々な考え方があるが、グローバル人材の育成という共通の目標により、おおむね理解と支持が得られている。また、学科会議で自由に議論する環境が整っている。
年度目標	さらなる理解と支持のために議論を重ねる。
年度報告	国際経済学科の使命・目的及び教育目的は極めて明確になっており、教職員の理解は十分得られている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各回学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	新任教員の理解と支持を得る。

点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	学長室ブログ、経済学部ホームページやSNSなどを通じて、国際経済学科のミッションと活動を学内外に公表周知している。
年度目標	さらに学内外への公表周知に努める。
年度報告	主に学長室ブログで国際経済学科の魅力を発信するため、さまざまな活動について公表してきた。しかし、国際経済学科のアピールポイントである海外留学、トップ10カリキュラム、トビタテ！留学JAPANなどはすべて中止となり、公表できるコンテンツが減少した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧②学部ホームページ③大学要覧④学長ブログ⑤学科ニュースレター⑥学科FB
次年度の課題と改善の方策	コロナが終息し、海外渡航が可能になれば問題ないが、海外渡航が制限される場合にも学科の使命・目的及び教育目的をしっかりと公表する。
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	学部の長期ビジョンや学科の将来構想に反映している。
年度目標	高等学校での進路説明会などへの積極的参加やニュースレターなどをを利用して、国際経済学科の魅力を伝達する。
年度報告	学科の現状と改革案として中長期計画に反映している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①国際経済学科の現状と改善案②大学要覧③学長ブログ④学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	新任教員に対して使命・目的及び教育目的を理解してもらう。
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーのいずれにも反映し、国際経済学科の特徴を明確にしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	各ポリシーに反映しており、学科教員の理解を得ている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧②大学ホームページ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	外国人教員も2名在籍しており、グローバル人材育成という目的との整合性は取れている。
年度目標	教員の定年退職に伴い、教員の採用を計画する。
年度報告	追加2名の教員の突然の退職により、急遽新任教員の採用を行った。中国人教員1名、韓国人教員1名を採用し、学科の教員構成はより国際的となった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学ホームページ②大学要覧
次年度の課題と改善の方策	4名の教員が退職し、採用できたのは2名であった。人員が不足しているので、さらに優秀な人材確保のために採用活動を行う。

2020年度

経済学部 国際経済学科

基準2. 学生**領域： 学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2020年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	学生の受け入れに関しては入学定員充足率100%を目指して学科教員全員が今まで以上の努力をする必要がある。経済学部の重要課題のひとつとして退学者問題がある。退学者への対応は退学原因を洗い直すと共に、具体的な対策を検討する。学生の数学能力の向上を図る。教養ゼミにおいて中高レベルのリメディアル講義を実施してきたが、この方法を再チェックし、継続するか、異なる方法が必要かの判断をする。複数の教員が一人の学生に関与する体制を維持する。学生生活に関する相談や進路支援、学習環境の整備や学生の意見をどのように反映するかについても担任、副担任、学科長、学部長等
--------------	---

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-1. 学生の受け入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	国際経済学科のアドミッション・ポリシーを大学要覧やホームページなどで学内外に周知している。
年度目標	オープンキャンパス、高校における進路説明会や留学生対象説明会広報活動で周知を行う。

年度報告	高校における進路説明会、出張講義や広報活動で周知を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、機会が減少した。
達成度	A
改善課題	コロナにより逆風が吹いているので、学科の魅力についてより一層学外への公表周知に努める必要がある。
根拠資料	①学生便覧②大学ホームページ③大学要覧④学長ブログ教員出張報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	2018年度入試までは定員割れをしているので必ずしもアドミッション・ポリシーに沿った学生ばかりが入学しているとはいがたい。グローバル人材強化指定校入試はその対策となるべきであるが、機能しているとはいがたい。
年度目標	グローバル人材強化指定校入試などのPRを継続する。
年度報告	今年度もグローバル人材強化指定校入試の志願者が1名のみと依然少なかった。一方で、オープンキャンパスで非常に強いグローバル志向を示した生徒の入学も予定されている。
達成度	B
改善課題	グローバル人材強化指定校入試などのPRに努めるとともに原因を検討する。
根拠資料	①学生便覧②大学ホームページ③大学要覧④学長ブログ⑤教員出張報告書
次年度の課題と改善の方策	機会を捉え、高校での進路説明会や出張講義など学科教員の露出を増やし、PRに努める。
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	2018年度入試では志願者が減少したが、2019年度入試は再び志願者が増加している。2020年度入試結果もほぼ横ばいとなった。増加原因は不明な部分が多いが経済学科の応募者増加が影響しているものと思われる。また、経済学科に入学した学生のうち国際志向の強い学生にはなぜ国際経済学科でなく経済学科を選択したかを聞き取りもしている。
年度目標	国際経済学科で何を学ぶかを受験生に理解をしてもらうため、学科ニュースレターやSNSを利用して情報発信を継続する。
年度報告	定員50名に対して、入学者は53名、入学定員を充足した。しかし、コロナの影響もあり2021年度入学試験においては非常に苦戦している。
達成度	A
改善課題	コロナ終息後の入学定員回復を目指す。
根拠資料	①学科会議メモ②国際経済学科の現状と改善案
次年度の課題と改善の方策	コロナによる高校生の国際離れや旅行業、ホテル業界など国際経済学科学生の希望する進路への将来の不安が予想される。
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	2019年度入試は入学定員充足率98%、2020年度入試は入学定員充足率は106%であった。学科長を中心に対策を考え、その対策を学長に提出している。高校への出前授業、高校での進路説明会への参加等、学科教員が積極的に行うことを確認している。また、グローバル人材育成という学科の特徴を学外に周知するために、学長室ブログ、学部ホームページやSNSを利用して情報を発信している。
年度目標	さらなる努力を継続
年度報告	2020年度入試では定員50名に対して、入学者53名と入学定員を充足することができた。しかし、2021年度入試では現在まででは大きく定員割れが予想される。
達成度	B
改善課題	入学定員の回復を目指す。
根拠資料	①学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	コロナ禍における国際のイメージダウンをどうやって払拭するか。コロナ禍においてもグローバル化は止まらないことを発信し続ける。

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学科教員による学習支援体制を学内外に公表している。具体的にはTOEIC、HSKや英語によるプレゼンテーションなどがある。全学生について学科にて各学生の学習ポートフォリオを作成し、学科会議にて学生の状況を報告しあい、留年の可能性の高い学生を早期にピックアップして担任・副担任を中心として丁寧に指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科教員が経済学に関する学修支援を行っている。また、グローバル・コミュニケーション・クラブ (GCC) やTOEIC勉強会の参加により、学生の語学力にも進歩がみられる。TOEIC勉強会の参加者はTOEIC700点以上を目指し、達成した学生も数名いる。一方、コロナ禍において精神的問題を抱える学生が多く、対応に苦慮した。

達成度	S
改善課題	留年可能性のある学生、授業力支払い困難な学生、発達障害や精神的な問題を抱える学生など多様化する問題に対応する必要がある。
根拠資料	①大学教育センター学習支援資料②学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	特にコロナ禍においては、留学生のメンタルケアが必要になっている。また、TOEIC勉強会等に参加する学生が増えるようPRする。
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	現在のところ学科のカリキュラムにおいてTAは活用していない。トップ10プログラムでは学生リーダーを活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	カリキュラムにおいてはTAを活用していない。今年度はトップ10プログラムは中止となつたため学生リーダーも活用していない。国際経済学科では新入生親睦行事（サイクリング）において学生リーダーが参加した。

2020年度

経済学部 国際経済学科

点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	教育課程内では1年生のキャリアデザインⅠ（必修）がある。大学教育センター開講のキャリアデザインⅡ～Ⅳの受講を勧めている。また、インターンシップにも参加するよう教員が学生に指導している。学科としては海外インターンシップについても積極的なチャレンジを期待している。
年度目標	国内、海外を問わずインターンシップに積極的に参加させる。
年度報告	インターンシップに参加するよう学生に勧奨したものの、BINGO OPENインターンシップに関しては参加者は2年生の数名にとどまった。海外インターンシップについては、参加する予定の学生がいたが、コロナのために断念した。
達成度	A
改善課題	国内、海外を問わずインターンシップに積極的に参加させたい。
根拠資料	①BINGO OPENインターンシップ参加学生評価表②トビタテ！留学JAPAN資料
次年度の課題と改善の方策	トビタテ！留学JAPANが実行されれば、合格者はインターンシップに参加する。今日の就職活動においてインターンシップ参加は非常に重要になってきているので、学生を動機づける必要がある。
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生の進路に関しては検証している。学科の特色として留学生が多く、大学院進学や帰国後就職する学生が多い。
年度目標	毎年検証し、就職支援、進学支援に努める。
年度報告	昨年同様資料は収集し、堅守している。留学生の比率が高く、大学院進学者が多い。
達成度	S
改善課題	学科の特徴を生かした就職先の開拓が必要であるが、コロナの影響により国際経済学科学生の志望度が高い観光産業などの厳しい状況が続いている。
根拠資料	①就職課資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	TOEICやHSK受験、ビジネス検定の受験等を積極的に勧めている。特にTOEICとHSKについては学科教員が授業時間外に学修支援を行っている。
年度目標	現状を維持するとともに資格取得状況をOffice365を使用し学科教員間で共有する。
年度報告	TOEIC勉強会を実施し、高得点を獲得する学生も出ており、一定の成果をあげている。ビジネス検定の合格者も増加している。
達成度	S
改善課題	一部の学生だけでなく、より多くの学生に資格試験の受験やインターンシップへの参加を勧める。
根拠資料	①学科会議資料②国際経済学科学生名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	学部内就職委員とゼミ担任が協力して指導している。模擬面接や履歴書の添削等を担任が実施している。学生に就職課の活用を勧めている。
年度目標	学科の特色を活かした就職の質の向上に努める。

年度報告	本年度は新型コロナの影響もあり、就職内定率、就職の質ともに満足できるものではなかった。
達成度	B
改善課題	就職活動の早期化、多様化、インターンシップの重要性に伴いより早くから就職指導が必要になる。
根拠資料	①就職課資料②BINGO OPENインターンシップ資料
次年度の課題と改善の方策	BINGO OPENインターンシップや個別のインターンシップへの参加率を高める指導を行う。また、日本での就職を希望する留学生にも早い指導が必要である。

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	経済的支援には全学の特別奨学生制度がある。また、留学生に対しては授業料減免制度や各種奨学金があり、ゼミの指導教員が全力でバックアップしている。これらは学生はもちろん教職員にも周知されている。社会にもホームページ等を通じて公開している。留学生については給付型奨学金への応募を指導している。2年連続で留学生がロータリー奨学金を獲得した。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科の留学生が授業料減免を受けたり、外部奨学金を獲得したりしている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生課JASSO奨学金資料②国際交流課資料
次年度の課題と改善の方策	今後も条件の良い奨学金への応募を留学生に推薦する。
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	ハラスメント防止に関するFDに参加し、学科教員各自がハラスメント防止について意識している。特に学科においてハラスメント防止のための方策は実施していない。
年度目標	学科教員、学生ともに再度注意を促す。
年度報告	今年度は特にハラスメント関連の問題はなかった。以前学生によるハラスメントが問題になつたため、担任が気づいた点は、学科で共有している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生課資料②ハラスメント対応委員会資料
次年度の課題と改善の方策	昨年同様留学生については入学時に文化の違いを考慮して注意喚起を行う。
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	サークル活動については体育会系、文科系を問わず教員が顧問となって活性化の手助けをしている。留学については学科の特色から教員が学生に積極的に提案しており、複数の学生が留学中であり、留学希望者も多い。また、ボランティアにも複数の学生が参加して、地域で社会貢献活動を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	日本人学生、留学生を問わず、サークル活動への参加を推奨した。留学については新型コロナウィルスの影響で実施できなかつたが、オンラインによる国際交流を行つた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ②国際経済学科FB③学科ニュースレター
次年度の課題と改善の方策	新型コロナウィルスが終息次第、海外研修、留学を推進する。なお、未終息の場合にはオンラインによる海外研修を実施する。

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	校地、校舎等の整備については学科では実施不可能である。大学全体としては、十分とは言えないが、順次整備されている。学科に留学生が増えており、留学生のための施設が十分ではない。学生のためのアメニティーが貧弱である。討論しながら快適に自習できるような環境はプロジェクトラウンジやラーニングコモンズなど整いつつある。これらの施設を最大限に活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部予算要求書
次年度の課題と改善の方策	運営・管理は学科レベルで行うものではないが、施設を積極的に活用する。

点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	図書館のラーニングコモンズや共同利用センターのプロジェクトラウンジなどを利用して いる。ICT教室については情報教育の授業で使用しており、使用方法を学習した学生が授業 時間外にも活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科の特徴から実習、実験はない。図書館等の利用は、オリエンテーションで利用方法を 説明するとともに、利用を推奨している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部予算要求書
次年度の課題 と改善の方策	未来創造館のスペース（ラウンジ）を利用して、留学生と日本人学生の交流を推進したい。
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高 めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	バリアフリーに関しては学科単独での対応は不可能である。アメニティースペースの確保に ついては学生が昼食等をとることができる部屋を1号館5階に確保している。
年度目標	パソコン必携化に伴いパソコンを利用して自習や歓談ができるスペースを確保したい。
年度報告	1号館5階にパソコンが利用できる部屋を確保した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題 と改善の方策	確保したスペースや未来創造館のラウンジの利用を促す。
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理を行っていますか。
現状説明	時間割と教室の関係から教室がかなり不足しており、教務委員が頭を悩ませている。他学 部・他学科との関係もあり単独で解決できる問題ではない。教室の設備（DVD等）の老朽化 も目立ち、整備をお願いしたい。
年度目標	より一層の整備をお願いする。
年度報告	新型コロナウイルス感染拡大により、教室のみならずその他施設の利用管理は厳格に行つた。 また、遠隔授業が増加したため特に問題は生じなかった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①教室座席表②2020年度教務の手引き
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	学科単独の施設・設備がないため整備点検を行っていない。
年度目標	現状を維持
年度報告	1号館5回のコモンルームを整備し、管理・点検を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①防災訓練資料②2020年度学生便覧
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理シス 템を整備していますか。
現状説明	劇物・危険物はない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	劇薬・危険物はないので根拠資料もない。
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害 時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	防災訓練に関しては全学の安否確認等に教員・学生が参加した。学科単独では実施して いない。危機管理マニュアルについては大学のものを援用する。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学の避難訓練に参加した。安否確認に関しては回答率が高かった。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①福山大学危機管理基本マニュアル②海外での留学・研修などに係る安全マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の意見・要望を把握する体制は構築していない。現状では担任がその都度吸い上げ、学科会議等で議論している。体制を構築し、分析するシステムを整備する。
年度目標	学生の意見を分析し、検討する。
年度報告	学生の要望も踏まえてTOEIC勉強会などの学修支援を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター学習支援に関する各種資料②学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	学修支援の成果を可視化し、学内外にPRする。
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学生の担任、副担任、学科長、学部長が配慮をしている。必要な場合には、心身の健康維持のために、カウンセリングを受けることを勧める。学生がカウンセリングを受けることを嫌う場合には、担任がカウンセリング担当者から助言を受ける。発達障害を抱える学生や不登校になる学生が増えているので、担任を中心にケアを行っている。
年度目標	現状の努力を継続する。留学生間や留学生と日本人学生のトラブルにも配慮する。
年度報告	新型コロナウイルスの影響もあり、精神的疾患を抱える留学生が多かった。国際交流課と連携を取り、学科教員が対応にあたった。
達成度	S
改善課題	学生の精神的な異変をどう察知するか
根拠資料	①学生便覧②教員オフィスアワー表③経済学部委員会名簿④学生課資料⑤国際交流課資料
次年度の課題と改善の方策	教員は専門家ではないので、保健管理センターや外部の機関などと連携する体制を作る
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	学修環境も学修支援と同様に、従前から関係部署と連携をとりながら各種支援を行う体制を構築しており、学生便覧や各種オリエンテーション、ガイダンスで周知している。社会にもホームページ等を通じて公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学修環境に関する学生の意見・要望も取り入れる形で、1号館5階にパソコンの使用できるコモンルームを開設した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧②学科会議メモ
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

基準3. 教育課程**領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	卒業認定に関しては、基本的に学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づく。ディプロマ・ポリシーに基づきカリキュラムが編成されているので、そのカリキュラムに対しての学修成果を2017年度に作成したアセスメント・ポリシーを用いて、学科における教育課程と学修成果について、評価を行い、必要があれば教育課程を改善する。また、学生個人の卒業時における学習成果についてもアセスメント・ポリシーに基づいて評価する。また、2018年度から本格的に卒業論文のループリック評価を導入し活用している。
-------	---

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーは学生便覧、大学要覧やホームページにより学内外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①大学要覧②福山大学ホームページ③学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の作成は教務委員を中心に学科で議論し、その議論結果に基づき学部教授会で審議している。これらの基準に関してはカリキュラム表、カリキュラムマップなどの形で学生便覧上で学内に、福山大学ホームページ上で学外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準は学生便覧等で公表しており、学部教授会での審議を経て厳格に守っている。また、卒業認定基準の一部として卒業論文ループリックに関しても学生に開示し説明している。編入留学生の単位読み替え、留学した学生の単位読み替え、認定、海外研修の単位認定など、公平な評価についてのマニュアル化が進んだ。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウィルス感染拡大の影響で日本に入国できない留学生が複数発生したため、CAP制等については一部柔軟な対応をお願いした。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ②大学要覧③学生便覧
次年度の課題と改善の方策	編入留学生の単位読み替えに関するルールを明確にする。

2020年度 経済学部 国際経済学科

中点検項目 3-2. 教育課程及び教授方法	
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	教育目標とディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーとカリキュラム・マップを策定している。学内外には学生便覧、大学案内、HPで公開している。また、入学時にはオリエンテーションでカリキュラム・ポリシーを周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	入学時オリエンテーションで新入生にカリキュラム・ポリシーを徹底したものの、コロナの影響で留学生にうまく伝わっていない部分があった。
達成度	A
改善課題	対面でしっかり新入生オリエンテーションを行い、学生の理解度を確認する。
根拠資料	①福山大学ホームページ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	2年次の初めにも再度学生に周知する必要がある。また、学外においても高校の進路説明会で周知するほか、学科ニュースレター等で発信する。
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	学部教授会、学部運営委員会、学科会議などで一貫性を検証し、一貫性があると判断している。カリキュラムの適切性については検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録②学部運営委員会メモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、学科の特色ある教育課程を編成している。特に海外経験と欧米、中国及び東南アジアと日本との結びつきをとらえる科目やトップ10カリキュラムなどを体系的に設置している。
年度目標	現状の編成を維持すると同時に問題点があれば改善する。
年度報告	経済学部全体でカリキュラムの見直しを行い、2021年度からカリキュラムを改定する。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録②学部運営委員会メモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	卒業要件として初年次教育科目、外国語などの共通基礎科目、教養教育科目、キャリア教育科目の卒業必要単位数を設け、学生に学生便覧で公表しており、十分に実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ②学生便覧③教務の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	アクティブラーニングを教養ゼミ、基礎ゼミ、演習などの少人数クラスを中心に取り入れている。また、教材の配布、課題の配布と提出、学生へのフィードバックなどにゼルコバやセレッソを利用している。金融系を中心にブルームバーグ、日経テレコム、日経FinancialQUESTなどを活用し、データベースを利用した授業課題、仮想取引システムを利用している。
年度目標	ICTのさらなる効果的利用を進める。
年度報告	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、遠隔授業を実施したことにより、ICTを利用する教授方法が当然となった。
達成度	S
改善課題	対面授業と遠隔授業による授業の補完のハイブリッド化により効果的に授業を行う。
根拠資料	①学生による授業評価アンケート報告書
次年度の課題と改善の方策	学科FDなどにより、教授方法の情報シェアを行い教員間のICT能力格差を減らす。
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	学科に設定しているディプロマ・ポリシーに示されている学修成果を達成するために、学部の必修科目、学科の必修科目、学科の選択必修科目を置いている。学生はこれにしたがって履修すれば、学修成果を体得できる。きわめて具体的であり、整合的である。経済学部・学科の進級・卒業基準は学生便覧に明示している。適切性については教授会で議論し、可能な限りで卒業要件を守るようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	ディプロマポリシーに基づき、必修科目、選択必修科目について一部改訂を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	①全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	大学の教育理念の下、相互に整合性をもったアドミッション、カリキュラム、ディプロマの3つのポリシー、並びにカリキュラム・マップが策定されている。点検・評価方法としては、ディプロマ・ポリシーに沿ったカリキュラム・ポリシー表の作成や卒論ループリック表を作成して、評価を行っている。さらに2020年度からはアセスメント・ポリシーを活用し、学生指導に役立てている。
年度目標	現状を維持するとともに、アセスメント・ポリシー達成度を活用し、学生指導に役立て
年度報告	アセスメント・ポリシーが未だ効果的に活用されていない。
達成度	B
改善課題	アセスメント・ポリシーをより効果的に利用する必要がある。
根拠資料	①大学教育センターアセスメントポリシー資料②Cerezo③2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	アセスメント結果をどのように学生指導に結び付けるのか、学科FD等で議論する。
点検項目	②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。

現状説明	学生による授業評価アンケート結果に対して、口頭またはセレッソを通じてフィードバックを行っている。この評価結果に基づき、教員が学修指導等の改善につなげている。アセスメント・ポリシーの結果を学科内でシェアし、教育プログラムの検証に利用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	授業評価アンケート結果について個人ベースにより検証するのみで、学科全体では検証されていない。また、アセスメントポリシーが効率的に利用されていない。
達成度	B
改善課題	アセスメントポリシーの効率的利用と授業評価の学科としての検証
根拠資料	①授業評価アンケート報告書②2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	学科FDや学科会議にて、学科としての授業改善やアセスメントポリシーを効果的に利用した学生指導について議論する。

2020年度

経済学部 国際経済学科

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2020年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	中長期計画は、これまでの「2012年度、2013年度年度計画」と2014年度の「経済学部構想」に基づく。教育研究組織としての学部学科のありようは、2014年度からの新しい目的、新しいディプロマ・ポリシーにおいてすでに明らかにされている。これらにしたがって、学科に基本となる講義科目、それを担当する研究者を採用してきた。学部内でのFD研修や教員の研究しやすい環境づくりを検討する。
-------	---

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長の指示する大方針に基づいて、個々の科目にまで至る経済学部・学科教育を実施している。経済学部長、学科長は大学教育センターの方針に従って学部・学科教育を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①全学教授会議事録②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	学科教員はそれぞれ全学的な委員会に属しており、学科内で役割に応じてイニシアティブを発揮している。また、特定の個人に役割が偏らないように、学部運営委員会にて調整している。
年度目標	限られた人的資源で効率よく職務を行う努力を継続する。
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	学科教員数が少ないので各学科1名選出や委員は教授のみなどの縛りは対応不可能である。
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員は適正に配置されているが、人数が少ないと業務内容が多岐にわたるため、役割はあまり明確化されておらず、総合的にまた臨機応変に職務に当たっている。
年度目標	機能性を高めるために教職員がさらに協力する。
年度報告	教職員が協力して職務を行った。海外研修や留学の単位認定に関しては、事務室と協力してフロー チャートを作成し、ミスの防止に努めることとした。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各委員会名簿②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
-------	------------------

点検項目	①当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	非常勤講師の力も借りて学科のディプロマ・ポリシーを実現できるカリキュラムを組んで実施している。新規教員採用時には担当分野の研究業績を精査している。年齢別構成40代3名、50代3名、60代2名、70代1名である。うち外国人教員2名、女性教員が1名であり、教授4名、准教授3名、講師2名であり、ほぼ適切に整備していたが、急遽50代の教授1名が退職するため、教授の人数が設置基準に満たず、他学科からの転籍により充足している。
年度目標	採用人事を計画する。
年度報告	採用人事を実施し、2名の教員を採用することになったが、4名が退職することになり、来年度も採用人事が必要である。
達成度	B
改善課題	さらなる教員人事が必要である。
根拠資料	①2020年度教員選考委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	来年度なるべく早い時期から計画的に採用人事を遂行する。
点検項目	②大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	他学科からの転籍により、現在は大学設置基準を満たしている。
年度目標	採用人事を計画する。
年度報告	教授の人数が不足しており、他学科からの転籍により充足している状況である。
達成度	B
改善課題	教授を採用する必要がある。
根拠資料	①2020度経済学部人事計画②
次年度の課題と改善の方策	来年度なるべく早い時期から計画的に採用人事を遂行する。
点検項目	③FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	学科によるFDを実施した。また、全学や経済学研究科等が実施した各種FDへの参加をして、教員の資質向上を図っている。
年度目標	継続的に学科FDを実施する。
年度報告	学科で1年次・2年次教育に関するFDを実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科FDメモ
次年度の課題と改善の方策	アセスメントデータを利用した学生指導についてのFDを開催したい。

2020年度 経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	①SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	全学的なFD・SD活動に参加することで大学運営にかかわる教職員の資質・能力向上を図っている。特に学科独自の取り組みは授業改善FD以外行っていない。
年度目標	今後も全学、学部でのSD教育への参加を促す。
年度報告	全学のFD、SDに教員が参加した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	②大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	ゼルコバ、セレッソは各教員が授業や学生とのコミュニケーションに使用し、Office365では学生情報など学科教員間で様々な情報を共有するために利用している。
年度目標	さらにより効率的な活用を進める。
年度報告	遠隔授業の利用によりセレッソの利用が急速に進んだ。また、教員間の情報交換のためのOffice365の利用も増加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①ゼルコバでのアンケート等②Cerezoの各コース③Office365シェアポイント等
次年度の課題と改善の方策	対面授業が再開されてもセレッソ等を補助的に利用して授業効率を高める。

2020年度 経済学部 国際経済学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	全学的な委員会の数が多く、各教員の希望や適性に応じた役割分担ができない。教員は全員複数の委員会を掛け持つており、研究に専念する時間の確保は難しい。教員には各自の研究室を管理している。
年度目標	昨年同様メール会議の実施やICTの活用により、業務を効率化する。
年度報告	研究に専念する時間不足感及び役割分担の負担の主なものは委員会の負担によるものであるが、教員の適正を考慮して委員選出をした。不要な会議を減らし、メールで済むことはメールを利用した。
達成度	A
改善課題	新任教員の増加による学内業務の停滞がないようにする。
根拠資料	①経済学部委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	教員の研究時間が確保されるように、委員会の負担はなるべく平等にする。また、全学委員を学部内委員がフォローする。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	大学の規定に準じて教員に周知している。また、学部内で研究倫理に関するFD研修会を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録②研究倫理研修資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	個人研究費、学内助成金、ブランディング事業への参加等研究活動への資源配分や運用は適正に行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	FD研修を受け、また、インターネット上で講習を受けテストをしている。これにより十分に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学部研修会資料②研究倫理研修資料
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2020年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	2014年度に提示された学部の新しいミッション、学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づき、それらを具体化した新カリキュラムに従って計画される。国際経済学科においては、地域に貢献できるグローバル人材の育成という大目標のもとに、1年次から学生を海外研修に連れ出し、自分の五感で海外を体験させ、2年次にはトップ10プログラムで問題解決型の海外研修を欧米・中国・東アジアの3地域のうちいずれかで行う。3年次には海外長期留学や海外長期ボランティアを体験させ、海外と日本を比較することで、より日本をよく理解できるよう研修を行う。年2回のTOEIC模擬試験と年1回のTOEIC公開試験の受験などの成績をポートフォリオ化し、学習成果の可視化を行うとともに学習の質を保証する。また、アセスメント・ポリシーに基づき、PDCAサイクルを回す。
--------------	---

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
--------------	------------------------

点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	内部質保証のための組織としては、学科会議、学部運営委員会、学部教授会があり、学部長を中心に責任体制は確立している。自己点検評価については、学科長と学部長が責任をもって作成している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定②福山大学経済学部自己点検評価委員会細則③2020年度卒業論文要旨集④2020年度教授会議事録⑤2020年度自己点検評価書⑥福山大学学則、福山大学学部長会規定
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	問題を早期に発見し可能な対応を運営委員会で協議している。問題が発見されると、運営委員会、教授会での審議等を通じて、適宜、解決につなげている。 また、学科教員の協力を得て、学科長を中心に自己点検・評価を行い、それを学部運営委員会に提示し、検討しており、システムを確立している。 学生による授業評価を実施し、教員による対応もシラバスに掲載するが、この全体を公表しているわけではない。授業評価の全体像はホームページ公表している。また、大学による学生に対する各種アンケートも公表しており、その結果を学科教員が共有している。教員評価も自己点検評価の一部であるが、結果は公表しておらず、共有していない。平成26年度に経済学部は外部評価を受けた。その結果はホームページで公開している。その他の諸活動に関しては、学科ホームページ、学長室ブログ、学科Facebookなどを通じて情報を共有している。
年度目標	学生による授業評価アンケート結果や自己点検評価の結果を共有し、向上に努める。
年度報告	自己点検評価について学科内で共有した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	高校時代の成績や入学試験の成績による分析は学科単独での分析は行っていない。学生の入学時の英語力と入学後の英語力と検定試験結果については、一部分析を行っている。
年度目標	その他についてもIR室の分析結果を利用して分析を試みたい。
年度報告	学生の入学時の英語力と入学後の英語力と検定試験結果については、一部分析を行っているが、高校時代の成績や入学試験の成績による分析は学科単独での分析は行っていない。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ②学科会議メモ③国際経済学科学生名簿
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	学科教員の協力を得て、学科長を中心に自己点検・評価を行い、それを学部運営委員会に提示し、検討しており、PDCAサイクルを確立しつつある。学生による授業アンケート評価結果については学科教員全員の結果を公表していない。学科にて授業評価アンケート結果に基づきFDを行った。それを今後も継続し組織としてのPDCAサイクルの確立を目指す。
年度目標	学科FDを継続して実施する。
年度報告	内部質保証のためには低学年時における指導と動機づけが重要との観点から学科FDを実施した。
達成度	A
改善課題	PDCだけでなくActionが必要である。
根拠資料	①授業評価アンケート報告書②学部運営委員会メモ③学科FDメモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。

現状説明	全学ならびに学部の方針にしたがっている。コンプライアンスにかかるFD講演への参加を促している。また、学科会議等による相互チェック機能によりコンプライアンス意識を保持している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	相互チェック体制の強化
根拠資料	①経済学部教授会議事②全学SD研修会資料③経済学論集投稿規定
次年度の課題と改善の方策	来年度より学科教員を2名のバディ制とし、相互チェックを行う。

2020年度

経済学部 国際経済学科

基準7. 福山大学プランディング戦略**領域：「福山大学プランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）**

2020年度

経済学部 国際経済学科

中長期計画	(学部に準ずる) 備後地域にある大学として、地域とともに歩み、地域社会の発展と安定並びに地域への人材供給に寄与することを本学のミッションとする。本学は、教育理念の一つである「地域社会の発展への貢献」を行うために、産業界及び地域自治体との連携(産官学)を進めている。経済学部においては、プランディング事業運営委員会を解消して、新年度から「備後圏域経済・文化研究センター」を設立した。備後地方は、瀬戸内地方の中心にある。ここに住む人々の暮らしは、恵まれた里山里海にあり自然と共生している。今日の備後地方は、1964年に備後工業整備特別地域に指定されて以来、製鉄業、機械工業、繊維産業などが飛躍的に発展してきた。こうした中で里山里海に関連した農林水産業等も独自に発展してきた。経済学部では、備後圏域の経済に関する研究、備後圏域を踏まえた国際経済、備後圏域の活性化に関する研究を進めていく。研究プロジェクトは、共通のテーマである里山里海学に関連したヒトとモノの動きを中心とした研究を進める。

2020年度

中点検項目	7-1. 福山大学プランディング戦略の推進
点検項目	①福山大学プランディング戦略(ver. 2018)の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	(学部に準ずる) プランディング戦略については、年度初めの学部教授会で周知している。備後経済研究会は、研究会、講演会の開催時に教職員へ周知している。また関心のある学生・院生・社会人についても参加を呼び掛けている。 また今年度の研究プロジェクトは次のとおりである。 ①備後地区の里山里海資源が、内海町、広瀬町の地方再生に向けた具体的役割を検証しつつ、他の取組みを事例に可能性を探る。 ②海外市場開拓については里山里海の特産品の海外市場へのアクセスを巡る問題点、解決策を中心に考察する。 ③備後地域における地域資源の活用と当地域の企業経営の特長を探る。 ④備後地域の多くの企業は、環境保全に配慮しつつ、繊維、機械、製鉄など全国有数の生産地を形成してきた。環境保全と発展の具体的な取組みを探る。
年度目標	現状を継続
年度報告	経済学部は、プランディング事業運営委員会を中心に、里山・里海資源に基づく備後地域の産業競争力増進との好循環の創出の可能性について取り組んでいる。例年通り年度初めの学部教授会で全教員へ周知徹底した。今年度においては、効果が期待できる備後経済研究会は新型コロナ感染防止の観点から開催ができなかった。一方昨年度実施した経済学部外部評価報告書を発行して産業界等関係団体へ送付した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回学部教授会議事録 ②福山大学ホームページ研究・産学連携 https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/ ③2019年度経済学部外部評価報告書(2020年度発行)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	②福山大学はプランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からプランディングにどのように取組んでいますか。

現状説明	(学部に準ずる) 備後地方は、全国的に多様で有数な産業集積地である。これらを踏まえて、地元商工会議所の運営・発展に参加している。国際経済学科ではトップ10カリキュラムを進めグローバル人材育成を目標に掲げて取り組んでいる。税務会計学科では備後経済コースを設置し、地域調査、備後経済、を通して、備後地域企業にとって有用な人材育成に取り組んでいる。地域調査では、特定企業と基本協定を締結している。また備後経済研究会は、業界、企業に対して産業界と定期的に連携した研究を実践している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 コロナ禍で備後経済研究会は開催できなかつたが、遠隔授業、また海外研修（インドネシア）ではリモートによるバーチャル体験を行うなどして大きな成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/ 主なもの 2020.8.6 早川教授「コロナ禍における福山市経済の動向ほか」情報提供 2020.8.12 「地域調査」地元企業と連携した新たな授業形式を導入 2021.2.15 張楓教授 中小企業研究奨励賞（商工総合研究所）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	(学部に準ずる) 経済学部では、未来創造人を育成することを目指して産学官民連携を様々な形で取り組んでいる。国際社会に繋がるグローバル人材育成として経済学部は、トップ10カリキュラムをはじめ、4大学連携講座、トビタテ！留学JAPAN、フィリピン、インドネシアなど各種海外研修を実施している。これらは、「未来創造人」を視野にしてすべて産官と連携した事業となっている。
年度目標	
年度報告	基本的には、現状の取り組みを継続した。 4大学連携講座は、福山市の財政的な事情から実施できなかつた。また、コロナ禍で海外研修は出来なかつたが、一部の海外研修（インドネシア）ではリモートによるバーチャル体験を行うなどして大きな成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ 研究・産学連携 https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/ ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/ ③2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部に準ずる) 地元産業界を代表する福山商工会議所と記事掲載、イベント共催、協議会参加などで積極的に連携している。また研究プロジェクトに地域再生をテーマにして、里山・里海学では、観光、流通、商工振興など備後地域の特性を生かす取り組みを行っている。備後経済研究会は継続して産学連携を進めており、業界、市民へ成果を還元している。シンポジウムなどのイベントでは参加者に対してアンケートを実施している。
年度目標	里山里海資源が内海町などでどのように生かされているか検証し、問題点を探る。
年度報告	コロナ禍の産業界では積極的な展開がなされていない。地域創生においても広瀬、内海町においても各種行事がすべて中止され、地域に詳しい方との接触も出来ず予定の取組は出来なかつた。一方、今後につながる人的な関係は絶やさないよう取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』経済学部教授 張楓 ③福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念 経済学部講師 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部に準ずる) 福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」(発行5700部)に、福山大学経済学部の教育目的の一つに「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマにした記事を1年間掲載している。経済学部では常に全人教育を念頭においた取り組みを進めている。 ①備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えていた。このためトップ10カリキュラム(国際経済学科で成績優秀者10名程度に対して大学が費用を半額負担し、国内1週間、海外3週間程度で実施する問題解決型海外研修カリキュラム)、地域調査、備後経済論などは、グローバル人材育成、地域特性を踏まえた人材育成の取り組みを行っている。 ②資格検定の実績向上に努めている。 ③経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元に就職し活躍している。 企業懇談会等をとおして、また各種資格検定の合格者数等で検証している。
年度目標	地域での就職実績等により検証し、問題点を明確化する。 資格検定の実績を上げる。
年度報告	現状の取り組みを継続した。コロナ禍で一部予定どおりでなかった(海外研修)が概ね目的達成した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書(2020年度発行) ②大学要覧(国際経済学科ページ)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部に準ずる) 里山・里海の経済をグローバル経済につなげていく、市場調査、食品産業の実態、また内海町などの里山里海の資源が地方再生に向けた今後の可能性を探ることにしている。 税務会計学科備後経済コースでは、地元企業と連携した実践的な地域調査、備後経済論を開講している。備後経済研究会は、個別の企業・個別業種のデータを整備し、データベース化しながら事例分析を行うことにしている。 上記のことを、主要には大学ホームページにより周知を行い、行政関係、企業経営者、一般市民などが参加している。備後経済研究会の参加者は平均15名で、成果が検証できると判断している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	コロナ禍で従来行っていた現地調査を伴う取り組みはできなかった。その他については現状の取り組みを継続した。また備後圏域経済・文化研究センターを設置し地域連携を積極的に進めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書(2020年度発行) ②『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 経済学部教授 張楓 ③福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念 経済学部講師 大
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	(学部に準ずる) 経済学部は、学問にのみ偏重しない全人教育として、企業・行政連携での学びを通して、行動的重要性が考えられるような取組みを重視している。 具体的な例として、昨年度福山商工会議所の月刊誌「商工ふくやま」(発行 5,700部)に、経済学部を紹介している。この中で「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマとして人材育成、地域連携などの魅力を発信し、企業経営者などから高く評価されている。またビジネス検定、日商簿記など資格検定の実績向上に取り組んでいる。においても機会があれば引き続き取り組む。里山・里海学、研究会においては、観光、流通、消費、また産業界と密接に関連したテーマであり、参加者の意見、アンケート等を通して検証している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。 資格検定の実績を上げる。

年度報告	経済学部はビジネス能力検定を指標に位置付けている。例年2回の試験であったが、今年度はコロナ禍で1回だけに実施であった。全国的には受験生は45%減であったが経済学部は、14%減に留まり2級の合格者は53名から67名へ増加した。また就職内定率は、現時点で実質100%と前年並みを確保している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度参事会（2月26日）資料 ②就職課就職率データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取組んでいますか。
現状説明	(学部に準ずる) 2019年度から従来の研究テーマの見直しを行っている。見直しは里山・里海の特性を一層生かすことから内海町・広瀬町の地域再生、観光資源の発掘と情報発信、また農林水産資源調査などを研究プロジェクトに加えた。研究課題「観光資源と情報発信」は、従来の内容に備後地域特有の起業家精神や戦略が存在するという仮説を立て、備後地域における企業についての研究を行っている。 また、備後圏域経済・文化研究センターが設立されたので、学部教員全体がブランディング戦略に関心を持ち参加するよう要請する。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。また2020年度に備後圏域経済・文化研究センターを設立したので、教員の関心を高め計画的に取り組む。
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターが設立され、学部教員に対して主旨を確認し理解を深めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 国際経済学科

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	(学部に準ずる) 学部内でプロジェクトチームを作成している。メンバーは張楓を中心に、尾田、平田、佐藤、劉、大城、合計で6名である。研究は、地方再生、中国市場調査などいずれも里山・里海に関連して地域に関連した4件である。 予算要求、予算執行では、学部事務室が円滑に推進できるよう支援している。
年度目標	現状を維持。2020年度から備後圏域経済・文化センターを設立したので、学部教員が関心を持ち参加する意識を一層高める。
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターが設立され、学部教員に対して主旨を確認し理解を深めた。 一方研究プロジェクトは、いずれも現地調査を伴うものでコロナ禍で全体的に取り組みが
達成度	B
改善課題	調査先に理解を求めて調整する。
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	年次計画で実施しているので偉業が繰り延べになる。 最終年度となる地域調査は、個人研究として継続する。
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	(学部に準ずる) 外部資金獲得に向けて公益財団法人広島産業振興機構などと協議したが、事業期間は単年度であることなどから不調に終わった。引き続き他の資金獲得に向けて努力する。 現在では、一般財団法人義倉と資金獲得に向けて協議をしている。
年度目標	現状を維持。効率的な執行に努め、外部資金獲得に一層の努力をする。
年度報告	現状の取り組みを継続した。外部資金は獲得できなかつたが、内部資金については出版助成（800千円）を獲得できた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度福山大学出版助成 『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 経済学部教授 張楓
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。

現状説明	(学部に準ずる) 中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行っている。企業調査では、『福山市史』の編纂に携わり、また商工会議所の定例役員会で講和するなど発表している。その他については、計画の途中であり発表の段階ではない。 備後経済研究会では、例年4回の開催を通して成果の発表を行政関係者、一般市民、経営者、本学学生などに広く行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取組を継続するよう努めたが、コロナ禍で研究プロジェクト、備後経済研究会など一部について実施できなかった。こうした中で備後福山における多様な企業な発展、経営分析について発刊するなど社会に対して研究の成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』経済学部教授 張楓 ②福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念 経済学部講師 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	